

本川根町

地形概況

大井川本流と支流寸又川流域の赤石山地南部の山地からなり、河谷は峡谷と曲流をなし森林美と溪谷美をもつが山地崩壊も多い。千頭付近はやや広いが、一般に谷底はせまく、低地と段丘・高位平坦面に集落は立地する。旧河道や貫流丘陵も特色がある。

地質概況

北部には緑色岩や赤色チャートをふくむ泥岩と砂岩からなる白根層群、砂岩を主とする寸又川層群、砂岩泥岩互層の犬居層群、三倉層群が北東-南西方向の走向をもって帯状に配列する。風化作用や構造運動による破砕作用がすすんで山地崩壊が多い。

気象概況

年平均気温が 13.2℃は県内でも低い方で、放射冷却に加え山腹からの冷却した空気が流下し滞留するため朝が寒い。中部山岳多雨地帯に位置するため、年平均降水量は 3,261mm(田代)と県下で最も多く、5月から8月に集中する。

災害事例 地震

- 1944年12月7日(昭和19年) 東南海地震 M=7.9
県中西部で被害が大きかったが、当地では震度5程度である。

災害事例 台風

- 1991年9月19日(平成3年) 台風18号
台風18号の北上に伴い、秋雨前線が活発となり、本県全域に大雨を降らせ、水窪町では時間雨量88mmを記録した。本川根町では建設中の長島ダムの「仮締切」が半壊した他、NTTのケーブルの切断により、市外通話が不能になった。床上浸水25戸、床下浸水22戸、公共建築物3箇所の被害となった。
- 1979年10月19日(昭和54年) 台風20号
全県下で被害を受けた。時間雨量は11時56mm、12時58mm、13時79mmである。床上浸水7戸、床下浸水10戸、流失畑0.2ha、冠水畑13ha、決壊堤防13箇所、橋梁1箇所、崖崩5箇所の被害があった。
- 1958年8月25日(昭和33年) 台風17号
県の中・西部で被害。本川根町千頭で25日の日雨量446mmに達した。
- 1928年10月7日(昭和3年)
全県下で風水害があった。本川根の日雨量は6日23mm、7日353mm、8日75mmで計451mmに達した。

災害事例 豪雨

- 1961年6月27日(昭和36年)
本川根町千頭で日雨量450mmの豪雨。

災害事例 旱魃

- 1965(昭和40年)

全般に降水量は平年の2分の1で県下全体に早魃であった。本川根で8月の雨日数は4日しかなく、平年より11.1日少なかった。